

ゼミナール

事業経営

電気料金の上昇が続いている。燃料価格の上昇に加え、昨今は自由化された市場に起因するリスクも背景にある。卸電力価格の上昇

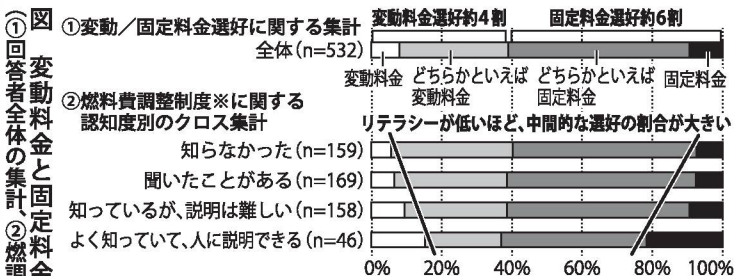
【料金上昇に対する消費者の認識】

【多様なリスク選好】

【選好の強さとリテラシー】

【今後の料金設計に向けた課題】

選好を踏まえた設計と情報提供の拡充が必要



設問文:「今、電気の料金プランを見直すとしたら、次にあげる料金プラン(A)と(B)のうち、どちらを利用したいと思いますか。(A)と(B)のいずれでも、電気の使用量によって支払額は変化します。」
 ・変動料金:「(A)時間帯や季節、燃料価格などによって、料金単価が高くなったり、低くなったりする変動料金プラン」
 ・固定料金:「(B)時間帯や季節、燃料価格などによらず、料金単価が変わらない、固定料金プラン」
 ※燃料費調整制度の認知度に関する設問における説明:「石油、石炭、天然ガス(LNG)の輸入価格の変動に応じて、電気料金の単価が毎月、調整される仕組みがある」

様々なバリエーションがあるが、単純化するのと、単価が変動する料金と、単価が固定される料金に大別できる。従来の燃料費調整制度は、調整の上限やタイムラグはあるものの、燃料価格の変動リスクを一定程度、消費者が負うという点で変動料金の一種である。また、時間帯ごとの需給状況に応じて高頻度で料金を変動させるダイナミック料金は、変動料金の究極形といえる。

本調査では簡易的に、変動料金と固定料金をのどちらかを好むかを調べた。調査前は、料金上昇局面では、大半の消費者がリスクを回避できる固定型を選好すると予想していたが、結果を見ると、固定型を選好する割合が大幅に減少している。これは、リスク選好の詳細を的確に把握することが課題となる。

また、全面自由化から約6年が経過したものの、消費者のリテラシーが十分でなく、市場リスクに向き合う準備ができていない実情も見えてきた。料金に関する情報提供も課題である。今後、再エネや蓄電池、電気自動車などの普及に伴い、需給や市場リスクも変容しうる。効率的な資源配分のために、ダイナミック料金など新たな料金も候補となる。消費者の選好をふまえた料金設計や情報提供の実現により、市場の変容に対して事業者も消費者も柔軟に対応し、市場が健全に発展していくことを期待したい。(隔週で掲載します)



後藤 久典
 電力中央研究所 社会経済研究所 首席研究員
 1977年11月20日生まれ、専門は経営学(主にマーケティング、イノベーション)